

資料4

京丹波町における地域ケア会議の取り組み経過について

生活圏域単位の開催

地域ケア会議につきましては、旧町合併以来、生活圏域ごとに毎月1回開催し、行政や社協、町内の医療機関や介護事業所等からの参加を得て、報告、課題提案を受けて開催してまいりました。

全町での開催（政策会議）と個別開催

しかし、訪問系サービスの需要の高まりや、短期入所、通所系サービスの多様化、買い物、社会参加の機会作りなど、地域に偏在する様々なニーズに対して、オール京丹波で対応しなければならない現状を踏まえ、平成25年度から、町全体でテーマを決めて開催する「地域ケア政策会議」と、個別の事例について当事者家族や民生委員等、地域の関係者を含めて開催する「個別地域ケア会議」の2通りのやり方に変えてまいりました。

生活圏域単位の個別ケア会議

今年3月に、第7期介護保険事業計画が策定されました。

高齢者等が、病気や加齢等により、自宅でマイペースに生活できる状況、人生や生活でいたいことを馴染みの環境の中で続ける状況が困難になってきたとき、少しでも以前の生活に近い暮らしに近づけるためには、介護や医療等の専門職が一つのチームとして関わるだけでなく、友人、知人を含む、日頃の地道な地域福祉活動者（その思いを持つ人）と思いを共有することが重要です。

また、本人や家族の状況の変化に合わせて、支援するチームが代わって行くことがあります。本人や家族の思いをつなげていくことが大切です。

和知地域では、在宅介護支援センター業務を独自に継続している長老苑の主導により、町合併後も和知地域限定の情報交換会（要介護認定者に限るサービス調整会議）を定例開催されております。

本人や家族が望む思いの実現に向け、各会議における課題解決を支援するためにも、関わる職種等が情報を共有するとともに、地域における多様なニーズをつかみ、個別対応に終始しない住民参加型の協議の場づくりを今後一層進めていく必要があります。



毎月1回丹波・瑞穂地域、和知地域の2箇所で、個別ケア会議を開催



生活支援コーディネーターと共に住民参加型の協議の場づくりを目指す